



## 便所の落書き屋さん

ハセガワアユム  
ver.3.000

---

登場人物

高橋尚人(17) . . . トイレ難民の第一子。高校を中退してトイレに住んでる。

西森広史(16) . . . 高橋の元同級生。親がヤクザ。

笹本優里(17) . . . 高校生、西森と交際してる。

印宮(16) . . . 高校生 よくしゃべる。

坂本(16) . . . 高校生 空気が読めない

穴戸(16) . . . 高校生 ちよつと怖い。

初奈(17) . . . 高校生 ビッチ。

佐田玲子 先生 . . . 高橋兄弟の間で揺れている。

高橋政樹(兄) 先生 . . . 高橋の兄貴。20才離れてる。佐田先生と交際中。

先輩（年齢不詳）・・・世の中は全て下ネタのメタファーだと教えてくれるホームレス。



## △『便所』についての感覚▽

ライトノベル。大塚英志いわく消費される小説なのだが、角川ナントカ文庫とかいわゆるその類いである。漫画のような小説という解釈で合っていると思う。僕は一冊も読まないけど、その気分で書いた。

同時上演した『JUMON』の方を重たくしたので、こちらはとにかく気軽に、登場人物達の動きを明確に、ときにはかなり一生懸命ふざけようと。キラキラして、ギトギトして、スカッと終わる短篇で届けば嬉しい。ぼくはアメリカのテレビドラマばかり見るから、演出をモロそれっぽくしてるシーンもある(笑) 他には『ピアニスト』という、不幸で悲しくて綺麗な映画があるんだけど、その中のトイレでしているキスシーンのイメージが離れないので、それもずっとぐるぐるしていて、あんなキスはぼくには出来ないから違うことをしている。

なんかブっ壊れてる。学園モノシリーズは、MUで定期的に続けて行きたいシリーズでもある。一時期、廃人寸前まで行ってしまっただけに暗い学生生活を送っていた、ぼくの代わりに(苦笑)。いや、ほんと苦笑なんだから。

△シーン1▽

舞台は、N市の大きな公演にある有料トイレ。

薄暗い中ひとりりの男、高橋が入って来る。

背中にはリュック。くたびれている。

障害者用の広いトイレに明かりが着く。

壁一面に、いわゆる便所の落書きとして罵詈雑言が書かれている。

高橋  
(溜め息をつく)

寝袋を出しながら、片手間に文字を読み出す高橋。

高橋 「SEX大好き」・・・へえ。「年収800万円で暇を持て余している主婦です。」(小さく笑い)  
バーカ。あ、ここにも「↑バーカ」って書いてある。・・・「大至急10万円振り込んで下さい」・・・。

高橋、上を見上げるとすごい大きく「高橋政樹殺す!」とデカく書いてある。

「殺」の部分をごしやぐしやにする。

再び、寝る高橋。寂しいのか携帯ラジオをイヤホンで聞いている。

トイレの横で小さく泣き出す高橋、次第に寝てしまう。

そこに高校生カップル（西森と優里）が入って来る。

西森 その噂、ホント？

優里 本当だって。

西森 相合い傘とか、書きちやうかんじ？

優里 うん。

西森 もっと具体的に書こうぜ。何歳で結婚して、子供どれくらい産んどかさ。

優里 そこまで書いたら、家族計画丸出しで恥ずかしいじゃん！

西森 いいじゃんいいじゃん、

優里 身元とか判明したらテレるし、

二人とも、マジックを取り出しちやいちゃしてる。

優里 あく、結構スペース埋まっちゃってるう

西森 樽広まるの早いな。

優里 や、似たような筆跡が多いから、樽自体はまだそんなんだけど、コアな連中がいるんだよ。

西森 常連？

優里 うん、がめついにも程があるんだけど。こういうのって、1人1回じゃない？ね？

西森 お賽銭とか投げた方がいいのかな。

優里 馬鹿、

西森 ほらじゃあ、優里から書けよ。

優里 ハズい！ 西くんからいっちゃっていいよ。

西森 (じっと見つめて)・・・絵が書きたくなってきちゃったな。

優里 なにそれ、アート!？

優里、高橋に気づく。

優里 ヤダ、なにあれ！

西森 ・・乞食だろ。

優里 ちよつと、（小声で）・・・帰ろ。

西森 え、せつかく来たのに？

優里 またくればいいじゃん。

西森 一言だけでもパパッと書こうぜ。

優里 絵なんでしょ！

何かに気づく。

西森 あれ、高橋じゃね？

優里 え、

西森 高橋に超似てるんですけど、

優里 高橋って？ あの中退した？

西森 うん、そう、あの寝顔間違いないって。俺、席となりで何回も見てたから、（声をかける）高橋！

優里 やめようよ、

西森 え、なんで？ 再会じゃん。

優里 でも、なんか怖い。

西森 恐くないよ、高橋だぜ。

近寄る西森。

西森 起きろよ、高橋！ 俺、西森！ 覚えてるんだろ？

高橋 (寝ぼけてる) うんん、

西森 起きろよ！ 朝だぞ！（蹴る）

高橋 痛ッ！

優里 何で蹴るの！？ (思い出し) 夜でしょ！！

西森 起き易いかなって。

高橋 (気づき起き上がる) んん、・・・にしもりくん？ 笹本さん？

西森 テメッ！ なに、優里のパンツ見てんだよ！ コラ！（蹴る）

高橋、小さく飛ぶ。

優里 ちよっとお！ 見えてないよ！

西森 いやいま見えてたよ、

優里 いいじゃん減るもんじゃ無し、

西森 俺の気持ちが減るんだよ、

高橋 ・・ごめん、見えてた。

西森 ホラ。

優里 ええ？

高橋 ごめんね、笹本さんも蹴る？

優里 いやいい。

西森 お前大丈夫なの？ M？

高橋 Mってなに？ (腹の辺から雑誌を出し) ・・これ仕込んであったから、

ヤンマガを出す、高橋。

西森 おわ、先週号じゃん。

高橋 ごめん、ははは。

優里 なんでこんなに入れてるの？

高橋 襲われたときとか結構役立つんだ。

二人 (絶句)

イヤホンからラジオの音が洩れているのに気付く。

西森 なに？高橋、北朝鮮のスパイにでもなったの？

高橋 え？

西森 ギャグだよ！ お前、人と話すときはイヤホン外せや。

高橋 ああ、ごめん。失礼だった。

ラジオを止める高橋。

優里 半年ぶり、くらいだよね？

高橋 あ、うん。

優里 ひさしぶり。

高橋 いらっしやい。

西森 (驚愕)・・・ここ、高橋んちなの？

高橋 ああ、まあ最近、ね、ちよっと借り始めたっていうか。

優里 トイレだよね？

西森 (眩く) キチイな・・・。

高橋 まあ、有料トイレだから。

二人 ……

高橋 二人はどうやって？

西森 鍵空いてたから…

高橋 はははは、油断油断。今、流行のトイレ難民ってやつ？

西森 流行ってないから！ だからキチイって！

優里 世間はまだ、ネカフェ難民で踏ん張ってるよ。

高橋 先取りしちゃった？ ははは。

西森 さつきからスゲーキチイぞ。キチイだろ？

高橋 まあね。まあ、でも、でも、これくらいはさ、自分で選んだ道だから。

優里 ね、家は？ 親は？ こんなのおかしいって、

高橋 ……ちよっとね。

優里 は？

西森 こいつんちの家庭事情は複雑なんだよ。

優里 だからってこんなところ住んでいいわけないじゃない？ダメだよ、こんなところ！

高橋 ……ありがと。説教ありがとうね。でも、明日仕事で早いからそろそろ寝なきや。

西森 仕事って何してんの？

高橋 ちよつと、人には言えないような類いなんだけど、聞く？

西森 ちよつと相談する。(優里に)聞く？

優里 え、なんか怖い、

西森 恐いってなんだよ、高橋それ毎日頑張ってるんだぞ。

優里 ヒントだけ聞かない？

西森 ヒント？ それいいな。

優里 高橋くん、ヒントだけ聞いていい？

西森 最初の頭文字だけとか、

高橋、既に寝ている。

優里 ・・死んでる、

西森 (訂正)寝てる！ ・・縁起わりい事言うなよ・・・帰ろ、

優里 待って、

優里、壁に何か書こうとする。

西森 もういいべ、それ、また今度でいいべ！

優里、壁に「高橋くん頑張っ」てと書く。

西森もつられて「生きろ！」と書く。

高橋の寝顔を見つめる二人。

西森 おやすみ。

西森たちが出て行くと、自動的に電気が消える。音楽、転換。

△シーン2▽

明かりが代わり、高校の美術室のようにスケッチブックやカンバス立てを持って、生徒たちが入って来る。ここは美術室となった。

舞台奥の高橋はまだ寝たまま、別空間となっている。

舞台中央にはハツナがモデルをやっている。印宮、穴戸、坂本、優里がデッサンをしている。ポーズがぎこちないハツナ。

印宮 ああー、それ便所の落書き屋さんだわ。

全員 あく

優里 なにそれなにそれ。

印宮 便所の落書きって、誰かが書いてるとこ見たことある？

優里 (考え) 無い。バツタリ遭遇しても恐いんだけど、

印宮 だけど落書きは気づくと書かれてるよね。

優里 うん、

印宮 だからそれ、それを書く仕事してる人がいるんだわ。

優里 ええ？

印宮 仕事とかで書きに行く時間ないひととか、噂広めたい人とか、そういう人の代わりに。

優里 ・・都市伝説？

印宮 妖精妖精。

優里 そんなわけないでしょ、あの高橋くんだよ、

印宮 ある意味、妖精だろ。

坂本 そうだよ、あんなドロップアウト、ある意味妖精だよ。

印宮 坂本、空気読めよ、いま俺が優里ちゃんと喋ってるんだべ。

坂本 聞こえてるから、

印宮 じゃアリスナーだよ、リスナー、ファックス送って来い、そこからだ。

坂本 ファックス？（持ってない）

優里 印宮くん！

穴戸 居るよねー。

印宮 あ？

穴戸 居るよねー。そういう、電車とかファミレスでさ「自分たちの話は面白いっしょ」感覚で声のヴォリューム上げてる奴。居るよねー

印宮 居る居る探検隊かオメーは。

穴戸 ほら出た。4点。いまデッサンの時間でしょお。口より先に手を動かさなよお。

印宮 もーダリイよ、補習なんて。(モデルに)ハツナ、パンツ見せて。

ハツナ 無理

坂本 片パイは？

ハツナ もっと無理

印宮 (坂本に)ファックス送れつつたろ！

穴戸 大丈夫、ハツナそのままでも充分可愛いから。

ハツナ ありがと、ししやん。

優里 ねえねえ、それでドロップアウトってなに？ 何があったの？

印宮 優里ちゃん知らねえの？

優里 あたし、たぶんその頃交通事故で入院してたから、

印宮 あ、そっか。もうそんな経つんだ……。実はさ、その交通事故なんだけど、高橋が

優里 え？ なに、高橋くんが？ 関係あるの、

穴戸 ちよっとその話止めようよ、鬱になるから

印宮 んだよ、っせーな！

穴戸 優里ちゃん、悪いんだけど家帰ってグーグルで検索して、

印宮 載ってるわけねえだろ、こんなローカル情報、

穴戸 じゃああたし今すぐblogに書くわ（携帯を出す）

坂本 やめなよ、恥さらしだよ、

穴戸 いいでしょ！ 別に！ あんな腐ったロミオとジュリエットみたいなの！

印宮 ヴォリュームでけえんだよ！

チャイムの音がする。

全員 （後片付けをし始める）あ、やべ

優里 それであたしの事故にどう関係あるの？

印宮 もういかないと。

優里 ええ？みんな？

坂本 （必要以上に近づき）ほら、俺ら美術専攻全員でアートフェスに参加するから、そのメ切明日な  
んだよね。

穴戸 あんたが足引っ張ってるんでしょ、

印宮 もう夜通しやるしかねえな。

優里　ちよっと待ってよ、

印宮　あとごめん。この件、西森に口止めされてんだった。わりいね、

穴戸　なに忘れてんのよ、馬鹿。

印宮　んだよ、バーカ！

然り乍らじゃれ合う二人。坂本、挙動不審に遅れながら去る。

優里　ちよっとお！

残された優里に、ハツナが下品に話しかける。

ハツナ　ごめんね、あいつら美大へのレールがあるアーフェスに賭けてっから。（自分を指差し）あ、

あたしもか。ヒヒヒヒ。ね、タバコ一本ない？

優里　いいよ、これ（鞆を探り）西くんだけど。

ハツナ　あんがと、最近あたしのタスポ、なんか厳しくてさ。

スイカを出し、訝しがるハツナ。

ハツナ (思い出し笑う) ヒヒヒ、ししやん、イングーに昨日振られたばかりなんだよ。超ウケるよね。  
優里 ウケはしないけどそうなんだ。

ハツナ (手で宙に「心」と書き、相撲取りのように受け取る) あんがと。ヒヒ、(見渡し) 内緒だよ。  
タバコくれた御礼。(見渡し) 高橋が居なくなったのも、佐田先生に振られたからなんだよ。超ウケるよね。

優里 ウケないよ、どういうこと？

タバコを1本取り出しもてあそぶハツナ。

ハツナ ヒヒヒヒ、まんまだよお、佐田先生の取り合いになっちゃって、負けたって噂。しかも争った相手が自分の兄貴だったんだから。あたしらみんな知ってるのに、自分たちはバレてないと思ってるから、吹き出しそうでき。(気付くとタバコが鼻の穴に刺さってる) あ、ヤベ。(フツと銃口を吹き消すように息をかける)

優里 兄貴ってアレだよ、

ハツナ そう、美術の高橋。佐田先生も美術だから、ダブル美術！ ヒヒ(時計見て) あ、ヤベ行かないと！西森に礼言っというて、

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

## 便所の落書き屋さん（おためしサンプル）

---

2011年9月27日 初版発行

2011年9月27日 改訂（ver.3.000）

著 者 ハセガワアユム © 2011年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903

---